



いながき

議会活動報告・7月消防議会特号

# 隠ぺい 有力政治家のかけも

## ～救命士暴行事件～



いとう

吉川・松伏消防組合議会。消防業務については吉川市と松伏町が一部事務組合を結成して協力し取り組んでいます。トップの管理者は市長。副管理者は町長。実務責任者の消防長は管理者が任命。(市の部長クラスが就任) 議会は組合議会として独自に構成、開催。(3月、7月、12月が定例)。構成は吉川市議会から5人。松伏町議会から4人の計9人。任期2年で再任も。

7月10日定例議会。今回は「救急車暴行事件」の実状と「隠ぺい工作」について、開示された事件当日の「活動」と「支援」の公文書を手に質問を重ねました。

### 調査報告 No.2。－暴行と妨害の事実

#### <頭部も腹部も。車にも> 質問書の提出と合わせて事件当日の「救急活動記録」と「支援要請報告書」の情報公開を請求。救急活動は公務であり記録保存が義務付けられています。(裏面参照下さい)

質問ではまず救急救命士に対する暴行や妨害発生の事実確認を求めたのに対し、酒井消防長は当日の記録・報告をなぞるような形で殴打や活動への支障について認め、状況の説明をしました。

公文書の開示はプライバシーを守る立場で加害者の名前や住所などはスミで消されているものの、救急現場での活動記録は、そのまま提供されました。―「来るのが遅い」と連呼し、救命士の腹部を殴打。暴行を防ぐため、背後から脇下に腕を通して抑制。その後救急車のフロント、スライドドア付近をたたく。警察官に抑制を依頼―。別紙の救急活動記録表には、観察や処置の経過と内容を報告するとともに救急隊員が頭部を殴られた、活動の障害になったとの記載がされています。

<吉川警察署に被害届け。> 事件発生は平成24年12月30日。深夜、午前0時すぎ。その日の午前幹部数人に伝えられ、管理者の市長にも報告。消防本部として暴行被害を受けた救命士の診断の必要と警察への被害届けの提出―告訴を決定。質問に対し戸張管理者は「被害届けは出したが―」と告訴の認識ではないようなニュアンスの答弁でしたが、この事例は事実上公務執行妨害と傷害の現行犯であり、組織として被害届けをだしたことは「告訴」を意味することは自明です。先の調査報告No.1で紹介しましたが、消防本部は即刻、No.2の次長と事件現場の隊長、被害の救急士の3人が警察に出向いて事情聴取を受けています。後日、別の3人も警察に出向いています。刑事事件として本格的捜査が始まり、当然、加害者側についても捜査の手が伸びていたはずですが。

#### <不自然な告訴取り下げ> 暴行や妨害行為については組織として取り組むことが定めです。組織で決めたことをくつがえす力は管理者の他には考えられません。処理やその経過は組織内でも一切オープンにされていません。不自然です。

戸張管理者は「当事者間で示談が成立した結果であり、加害者からの申し入れを被害者が受け入れ取り下げになった」と手短かに述べただけで、加害者との関係や働きかけについては黙したままでした。答弁で示談は1月15日に成立したこと。その日に被害届けを取り下げたことが明らかになりました。が、それまでの16日間にどんな庁内協議があったのか。どんな判断のもとに対処したのか。示談に至る経過。その内容など多くのことが不透明のままになっています。これでは終止符を打つことが出来ません。(いとう)

## 救急出動は 一日平均10回余

報告 いとう 正勝

去年一年間の救急出動は吉川・松伏のエリアで3710件。一日平均10回以上。火災出動

## 最前線で「いのち」を救う！

は49件。救急の業務の広がり。住民の安全と安心の軸として大事な役割を果たしていることがわかります。搬送の人員は3325人。このうち急病が2305件。全体の62%。ついで一般負傷504件。交通事故426件。台風一過の今月11、12日は35℃をこえる猛暑で熱中症の対応も3件。高齢化の急進展もあり出動要請は一段と増えそうです。

## 救急処置の拡大 救急車内も高度化

救命効果の向上を図るため救急救命士制度が設けられたのは平成3年のこと。応急処置の範囲の拡充。医療との連携。

研修。資格。救急隊の編成、業務実施の基準。新たに▽心肺停止状態の患者に対する除細動器使用▽一部薬剤の点滴▽気道の確保などの処置を医師と連絡、指示のもとに行うことが加わり、これによって救命効果は従来の2倍ちかくなつたとされています。並行して救急車も高規格に。消防本部に2台。美南分署、松伏消防署に各1台を配置。搬送のストレッチャー。本部や病院との連絡無線装置。心電図。血圧。吸引。吸入。点滴。感染症予防の関係も配備。次に血糖値の測定も。さらなる救急医療の充実。プレホスピタルケアの必要も検討課題です。

## 救急隊員は3人編成 沈着、冷静。迅速に

傷病者の救命が最優先。

災害。事故。急病。的確な応急救置と緊急の搬送。指揮。チームワーク。知識。技術。

一般的に119番通報には3人編成の救急隊が出動。重症や混乱が想定される場合は3人編成の消防隊も同時に出動。今回のケース。「暴行事件」の現場には2台が出動しています。

## 活動の記録票提出 検証、分析は責務

救急活動は記録票に記載し公文書として保存する。客観的、正確に。事実をありのままに。行動内容としては応急救置、使用の資器材。医師の指示。協力者。障害の事項を。傷病者については意識、呼吸、脈拍など観察結果を具体的に。等々。そして常に事例を検討、分析し、救急活動技能の向上に努める事としています。前代未聞ともいえる公務執行妨害の今回の暴行事例。反省、教訓も多いはず。表に出して今後に生かすべき事例です。



### 〈質問通告内容〉

①当日の状態について

▽救急処置▽資器材の活用▽応援要請や協力者▽車内収容方法▽活動上障害となった事▽傷病者の観察結果▽車内での状況と対応。

②暴行内容。活動の支障は。

▽現場で羽交締めに至るまでの状況。▽その後の現場対応▽消防長や管理者への報告は、いつ。▽傷害の程度。診断内容。勤務状況。

③告訴に至る経過と状況

▽組織としての扱い。▽管理者や消防長の判断。▽警察への告訴の状況。組織への報告、内容と扱い。

④告訴取り下げの指示。

▽その理由。▽時期▽ルート。▽命令・指示か。▽庁内協議は。▽被害者等との話し合いは▽職員への説明は▽取り下げの手続き。▽加害者との接触。その内容。▽示談か和解か。その内容。▽関係者への説明。

⑤管理者と加害者の関係は。

▽どういう立場、職業か。▽働きかけは。誰から。いつ。▽全員に伝え検証すべき事例ではないのか。

⑥ひどい隠ぺい工作ではないか。

▽隠ぺいの認識は。守秘義務の対象か。背筋を伸ばして見解を。(いとう)

「消防議会を傍聴して」  
ますます深まる疑問！  
いながき茂行

明らかになったこと

分からないこと・  
残る疑問

7月10日(木)午前9時30分から始まった吉松消防組合議会で、伊藤正勝議員が『救命士殴打事件』について一般質問で取り上げました。

消防議会では初めてとも思える18名の傍聴者(市議8)が見守る中、質問通告書に沿い、1時間にわたり質問を行い、真相の究明に迫りました。

戸張管理者と酒井消防長が答弁に立ち、救急活動記録や救急支援活動報告書に沿った説明はされたものの、被害届の取り下げや加害者との関係等については明確に答えず、関わりを濁しました。

職員を守るべき消防のトップが加害者を守るような立場に終始し、まるで他人事のような答弁で、今回の事件の重大さ、異常さへの認識は感じられませんでした。緊張感の中、平静さを装う姿が印象的でした。

▼1年半前の12月30日深夜、

『〇〇付近で人が倒れている』との通報を受け吉川南分署から救急隊、吉川署からは救急支援活動を行う消防隊が出動。

▼現場に到着。2階踊り場に傷病者(男性)が倒れており、胸骨圧迫を実施している男性に心肺蘇生法の交代と場所を空けるよう要請。▼繰り返し依頼するも、『来るのが遅い』と連呼し、救命士の腹部(頭部)を殴打。更なる暴行を防ぐため羽交い締めし、警察官の応援を要請。▼傷病者を救急車に移し、救命措置を実施。付き添っていた男性に状況聴取をするが酩酊並びに興奮状態で聴取できず。

▼午前1時44分、越谷の病院へ搬送。

▼庁内協議を経て吉川警察署へ被害届提出。救命士は2週間のケガ(吉川中央総合病院)

▼2013年1月15日、加害者との間で示談成立。被害届の取り下げ。

消防長の説明では、『1月15

日、加害者が来庁。救命士の委任を受けた総務次長が対応。加害者がお詫びし、治療費と慰謝料を支払うことで示談と

した。直ちに吉川警察署へ行き被害届を取り下げた』と言う。しかし、公務執行妨害事件まで、

個人が示談で済ますことか出来るのだろうか。また、取り下げに至る10日余の説明が全くされていない。この間、どのような働きかけがあり、誰がどのような目的で誰に指示したのかが不明。

**暴力は犯罪！なぜ事件を矮小化するのか？**

現場に駆けつけた救命士が暴行を受け、救急活動を妨害されたうえ2週間のケガをするという前代未聞の事件。『傷病者の救命が最優先』とガンバっている救命士、命を預けている市民に対し、管理者である市長はしっかりと説明責任を果たしていただきたい。



## 腸内細菌

ヒトの腸内には100種類、100兆個を超える腸内細菌がいるという。大腸菌や腸球菌はその代表。それらの菌はその人の生理機能、発ガン、各種疾病に関係し、免疫の促進、抑制に作用する。私たちの『健康と病氣』に深く関係している。

腸内細菌は、善玉菌(20%)、悪玉菌(10%)、日和見菌(70%)の3グループに分けられる。善玉菌の代表はビフィズス菌。悪玉菌代表はウェルシュ菌。日和見菌はどちらか強い方の味方になる。

善悪のバランスは一定ではなく、常に勢力争いを繰り広げ、せめぎ合っている。食事・老化・ストレス・過労等で悪玉菌が優勢になると腸の免疫力が低下してしまう。

私たちの社会もよく似ている。どんな組織でも多くの人は、強い方の味方をする。周りの人と異なる言動を慎み、敵ではないと装う。常に周りを見、場の空気を読む。穏やかに生きていくための知恵かもしれない。

消防組合では公務員の守秘義務の徹底が図られ、核心に触れる情報は出てこない。しかし、「あれはなかったことしてくれ」との『天の声の主』や『加害者は地元有力者一族で、市長の利害関係者』だったとの話は密かに伝わっている。

権腐10年。残念なことだが権力は腐敗する。これ程の『私物化』は許されない。  
(いながき)



# 事件当日の「支援要請」と「活動記録」

—開示された公文書です—

12月30日。暴行事件当日。—救急支援報告書(一部のコピーです)

プライバシーに関係する部分はスミで消して開示したとの説明です。

現着時の状況

下車後、救急隊とともに、誘導人(氏)の案内を受け、北東側入り口から屋内に入り、南北に伸びる二つの屋内階段の入口に至る。

救急隊長が1階部分から2階を見上げたところ、胸骨圧迫を実施している男性(氏)を認めたため、2階踊り場に至り、傷病者接触する。

傷病者は約1メートル四方の階段踊り場に仰臥位でおり、足が登り階段にかかっている状態で、氏が傷病者の左側にてバイスタンダーCPRを実施していた。

救急隊長が頭側に入り、消防隊員が胸骨圧迫位置につく。氏に心肺蘇生法の交代と場所を空けてほしい旨を依頼するが、酩酊並びに興奮状態であり、その場から離れなかった。

心肺蘇生法を継続しつつ、救命措置ができないことを伝え、繰り返し場所を空けるよう依頼するが、「通報から救急隊到着までの時間が長く、来るのが遅い」と連呼し、南救急隊の救命士の腹部を殴打したため、指令課に現場警察官要請を依頼したもの。

同時に男性の背後から腋下に腕を通し、更なる暴行を防ぐため抑制を実施。氏の協力を得て傷病者を搬送する空間の確保に至る。

メッシュ担架を用いて階下へ搬送し、北側の出入り口から屋外に出てストレッチャーにて車内収容。南救急隊と消防隊2名にて救命処置を実施する。

12月30日。暴行事件当日。—救急活動記録票(一部のコピーです)

プライバシーに関係する部分はスミで消して開示したとの説明です。

訴・状況等

聴取者

(関係者)

付き添いの友人に救急隊員1名が頸部を殴られた。

観察・処置の経過	時刻	時 分		時 分		時 分		時 分		備考
	意識									
	呼吸	回/分		回/分		回/分		回/分		
	脈 拍	回/分		回/分		回/分		回/分		
	ECG									
	血 圧	/		/		/		/		
	瞳 孔	R	L	R	L	R	L	R	L	
	Spo2	O2	ℓ %	O2	ℓ %	O2	ℓ %	O2	ℓ %	
	処置・判断等									

使用資器材  
除細動, ペンライト, 静脈路確保資器材一式,  
BVM, インハレータ  
フル・スズー, メッシュ担架,  
滅菌ガーゼ, 潤滑ゼリー  
LT4号, トーマスフォルダー, 聴診器.

現場にて付き添いの友人が暴れ活動障害となり

使用資器材

除細動、ペンライト、静脈路確保資器材一式、BVM、インハレータ、グルーシュー、メッシュ担架、滅菌ガーゼ、潤滑ゼリー、LT4号、トマスフォルダー、聴診器。

現場にて付き添いの友人が暴れ活動障害となり

開示請求

公文書の開示を求めて初めての請求。その迫力と威力を実感しています。

消防組合の情報公開については、吉川市情報公開条例を準用することになっています。十数年前この条例制定に先立って発足した「懇談会」の市民委員をつとめた立場もあり、今回は当局の対応や公文書の存在、開示の内容等を具体的に確認する得難い機会となりました。

「暴行事件」の概要掌握は徹底した口封じの中で困難を極めました。が、開示された資料で明確に裏付けられ、薄暗い力の行使を一気に表に出したと言えます。多岐にわたる公務。公文書は市民共有の財産です。その重みと価値。おすそ分けの気持ちでコピーの一部を掲載しました。

市民であれば誰でも情報の公開請求権が与えられています。納得のできないことや疑問に思う事業については気軽に開示請求ができる時代の到来。公文書の作成。記録。整理。保存への目配り。知る権利の広がり。法をかくぐる手法に歯止めをかけ、信頼の地域社会づくりを一步前進させることになると確信しています。

(いとう)